



Nihon Clinic
日本クリニック
PRESENTS

健康ニュースレター

MONTHLY NEWS LETTER for HEALTH

2019



今月のテーマはこちら

子宮頸癌検診を受けよう！ ～ HPV 感染と子宮頸癌のお話～

文責：内科、感染症科 江原 玲欧奈, MD

女性の皆さんは定期的に子宮頸癌検診を受けていますか？

以前に日本では定期的に受けていたけれど、アメリカではまだ受けていない…という方は多いのではないのでしょうか。

最後に
子宮頸癌検診を
受けたのは
いつですか？



子宮頸癌とは？

子宮頸癌は、女性特有の癌の中で乳癌に続いて2番目に多い癌です。世界では毎年約26万人が亡くなり、約53万人の女性が新たに子宮頸癌になっていると報告されています。

子宮頸癌は他の癌と異なり、発症のピークが30代後半から40代前半と若く、最近ではさらに20代から30代の若い女性の間でも増えています。

子宮頸癌は、患者さんの命はもちろんのこと、妊娠や出産の機会を奪ってしまうこともあり、女性の人生に大きな影響を及ぼす病気ですが、定期的な検診によって癌に進行する前に発見できる可能性が高い病気でもあります。

現在アメリカでは、21歳以上の女性は定期的な細胞診による子宮頸癌検診を、そして30歳以上の女性は同時に

HPV(ヒトパピローマウイルス)検査を受けることが推奨されています。

欧米での子宮頸癌検診受診率はとても高く、アメリカでは80%以上の女性が検診を受けています。しかし残念ながら、日本では検診受診率は25%程度と低いのが現状です。

HPVとは？

子宮頸癌の発症の95%以上は高リスク型HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因です。HPVの感染が長期に持続した場合、子宮頸部細胞に異常を引き起こし、この異常細胞をそのままにしておくと子宮頸癌に変化する場合があります。

HPVは本来、皮膚や粘膜に感染するウイルスで、150種類以上の型がありますが、その中の約30種類が、性器感染型HPVといって、性交渉や親密な皮膚と皮膚の接触により人から人へ感染します。つまり空気感染や、食事や洗面所の共有といった日常生活の中では感染しません。

CDC(アメリカ疾病管理予防センター)の報告によると、HPV感染はとてもありふれたもので、全女性の約80%が50歳までには、どれか一種類以上の性器感染型HPVに感染するそうです。一般にセックスパートナーの数が多くなると感染の確率が高くなるのは事実ですが、たとえパートナーが一人でもHPVに感染する可能性があることを理解することは大切です。

HPVは、数ヶ月、時には数年間、子宮頸部の細胞内に潜伏している場合があり、その間ウイルスは活動せず、ウイルス量も増えないので検査でも見つかりません。ところが、体の免疫機能の低下等が原因で、潜伏していたHPVが

途中で活性化することがあります。つまり、いつ、誰から感染したかを明らかにするのは困難です。

HPV感染自体は病気ではありません。たとえ感染していても、ほとんどの方は無症状で、子宮頸部に病変を引き起こす前に、体の免疫機能等によってウイルスは数年で体内から消えるといわれています。しかし、何らかの原因で、HPV感染が消えず、長期に感染が持続した場合、細胞の異型性や子宮頸癌につながる場合があります。

HPVはほとんどの場合感染しても症状がないので、感染を知る唯一の方法はHPV検査です。残念ながら現時点では、一度感染してしまったHPVを体内から除去することはできません。しかし、もしHPVに感染しても、子宮頸癌を発症するまでには、一般的に長い時間がかかります。子宮頸部の細胞が変化し始めてから、子宮頸癌に進行するまで10年以上かかるといわれています。そこで定期的な子宮頸癌検診でHPV感染を早く発見できれば、子宮頸癌に進行する前に適切な治療をすることが可能です。

女性のみなさん、
定期的に
子宮頸癌検診を
受けましょう！



Nihon Clinic
日本クリニック

CHICAGO

SAN DIEGO

2010 S. Arlington Heights Rd.
Suite 101 Arlington Heights, IL 60005

予約 847.952.8910

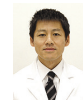
小児科 847.640.5437

内科 847.758.8080

カイロ科 847.956.3250

✉ chicago@nihonclinic.com

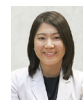
- 一般外来診療・内科・小児科・青年科・整形外科・カイロ科
- 人間ドック(ほぼ全検査項目を当院内で受診できます)
- 脳ドック(頭部MRI、頭部MRA、頸動脈エコー)
- 各種検査、手術、入院の手配 ● 胃内視鏡検査
- 検診・予防接種(乳幼児・小中高大学/日米用報告書作成)
- カウンセリング



四方, M.D.
内科



松本, M.D., Ph.D.
家庭医学科/
小児科・内科



江原, M.D.
一般内科/
感染症内科



黄, M.D.
整形外科



栗原, LCSW
心理カウンセリング



川文, D.C.
カイロプラティック科

www.nihonclinic.com